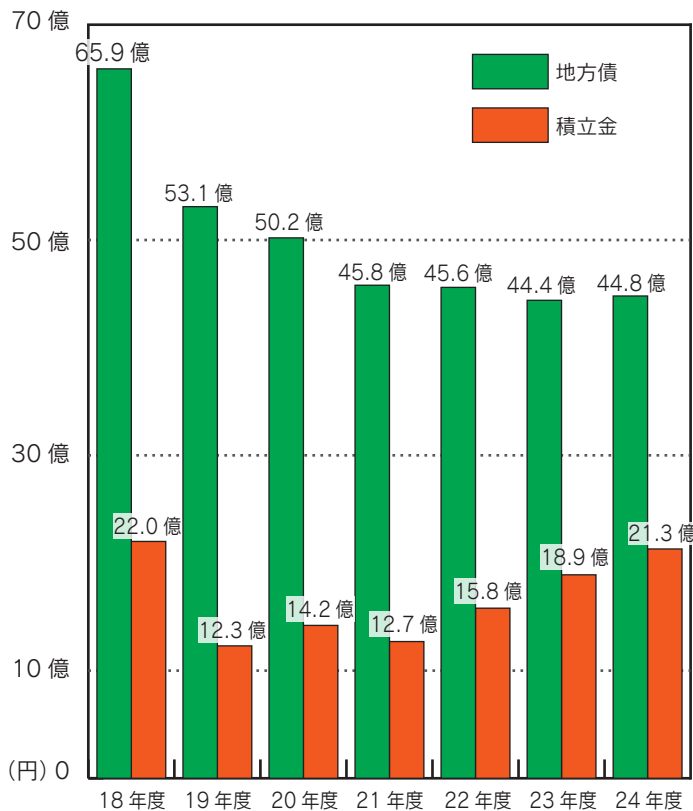


## 06 地方債（借金）と積立金（貯金）の推移



法律や条例に基づいて設置される**積立金**は、特定の目的のために活用できる町の貯金です。平成24年度末の積立金残高は、前年度から2億4,051万円増加し、21億3,177万円となりました。

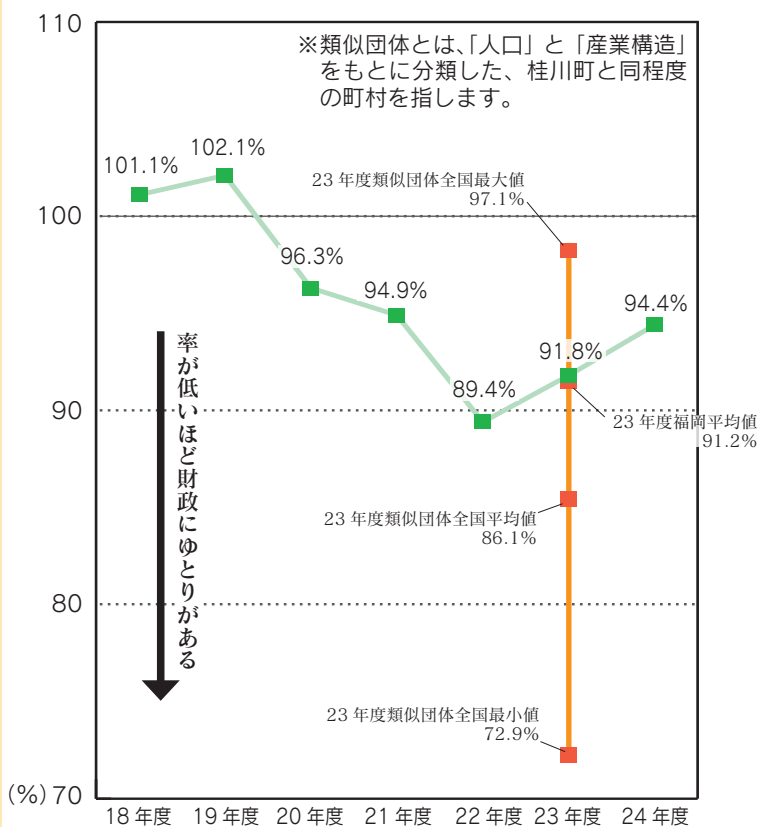
平成19年度、21年度の積立金の減少は、主に繰上償還に充てるために取り崩したものによるものです。

年度を越えて元利を償還する借入金を**地方債**といいます。平成24年度末の地方債残高は、前年度から4,053万円増加し、44億7,800万円となりました。

この地方債償還分にあたる公債費による財政負担の割合を減らすために、平成19年度から21年度にかけて繰上償還を行いました。

安定した財政運営のためには、この地方債の減少が大きなポイントとなります。

## 07 経常収支比率の推移



人件費、扶助費、公債費といった毎年必ず必要とする経費を、町税や普通交付税などの経常一般財源で割った指数が**経常収支比率**です。比率が低いほど、自治体が自由に使える割合が増えます。

桂川町の経常収支比率は、前年度より2.6ポイント悪化し94.4%となりました。財政構造に弾力性を持たせるためにも、今後も細心の注意を払いながら財政運営を行っていく必要があります。

### ① サラリーマンのお小遣い（経常一般財源）と昼食代（必ず必要な経費）に例えると…

① 1月30,000円のお小遣いに対して毎日の昼食代1食800円×30日分の経常収支比率

$$24,000 \text{ 円} \div 30,000 \text{ 円} \times 100 = 80\%$$

② 毎日の昼食代を抑え、1食600円×30日分としたときの経常収支比率

$$18,000 \div 30,000 \text{ 円} \times 100 = 60\%$$

②の様に昼食代（必ず必要な経費）が安く、経常収支比率が低いほど、自由に使えるお金が多くなり、お小遣いに余裕があることとなります。